ISSN 0910-2396

野鳥だより

—北海道—

第59号
編集・発行　北海道野鳥愛護会
発行年月日　昭和60年3月21日

キレンジャク　長沼町 1976 撮影　中尾弘志

もくじ

探鳥地案内（鰔沼）……2
長沼町の鳥……中尾　弘志……3
室蘭の渡り……福岡　研也……6
探鳥会報告‥野幌・ウトナイ湖・小樽港・藤の沢‥7
給餌台拝見……10
新年懇談会報告……11
探鳥会案内……11
鳥民だより……12
編集後記……12

探鳥地案内

鰔（うぐい）沼　㉘

◆位置　瀬棚郡北桧山町

◆交通　国鉄瀬棚線北桧山駅下車。駅から約2kmで徒歩30分。

市街地を抜けて真栄橋を渡り、北桧山自動車教習所の向いを左折、さらに「浮島」の案内板から右折し、田園地帯を抜けると鰔沼が見える。

◆概況　三方を山に囲まれた淡水沼で、鯉や鮒が生息している。面積は約3.3㎢、1kmほどで一周できる遊歩道がある。沼には大小20個ほどの浮島が点在し、その島にはハンノキやタモなどが繁り、いつもは岸に寄っているが風が吹くと沼中に漂う。アイヌ伝説の舞台にもなっているこの鰔沼を地元では「浮島」と呼んで親しんでいる。又、新緑や紅葉の頃は特に美しく、道南八景に選定されている。

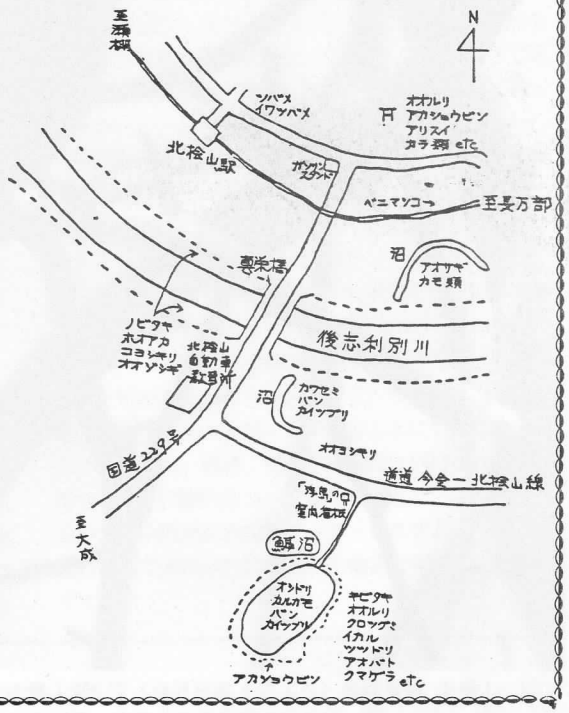
◆探鳥コース　沼の周囲の遊歩道を利用すると、木々の間から沼が見え隠れし、水辺の鳥と森林の鳥を楽しむことができる。なかでも、朝もやの沼のほとりで聞くアカショウビンの声は、幻想的で印象深い。又、鰔沼周辺の沼川や草原にも野鳥は多く、どこへ行っても探鳥ができる。

◆見られる鳥　（森林の鳥）　キビタキ、オオルリ、クロツグミ、イカル、ツツドリ、アオバト、ウグイス、センダイムシクイ、クマゲラ、アカショウビンなど。

（水辺の鳥）　オシドリ、カルガモ、バン、カイツブリなど。

（周辺の沼川や草原の鳥）　カワセミ、アオサギ、イソシギ、ノビタキ、コヨシキリ、オオヨシキリ、ホオアカ、オオジシギ、ベニマシコなど。

◆その他　道南、特に桧山地方は野鳥の調査があまりされていない空白地帯と言われているが、北桧山市街地を流れる真駒内川ではカワセミやヤマセミが普通に見られるなど、静かで豊かな自然の中で野鳥も多い。ここで紹介した鰔沼も訪ずれる人は少なく、静かに探鳥を楽しめる場所である。



長沼町の鳥

中尾　弘志

長沼町は、石狩平野の東端に位置した、平坦な水田地帯である。東側には標高約200㍍前後の馬追丘陵が連なっている。山麗にはエゾマツ、トドマツ、カラマツなどの針葉樹が植林され、頂上付近は、シナノキ、カツラ、ハンノキ、カシワ、ヤチダモなどの広葉樹林が広がり、鳥類の生息に良い環境となっている。平野部は夕張川、旧夕張川、千歳川が流れ、小沼、ため池なども多い。一方、水田地帯には40～50㍍巾の、ヤチダモ、ヤチハンノキ、ハルニレなどを主体とする防風林がかなりある。

以下に、主に道立中央農試近辺の水田、畑、果樹園、防風林などを含む地域（約63㌶）での調査結果に基づいて、鳥相を紹介する。調査は1976年4月から1981年12月まで（積雪期は除く）ほぼ7日間隔でラインセンサス法により実施した。

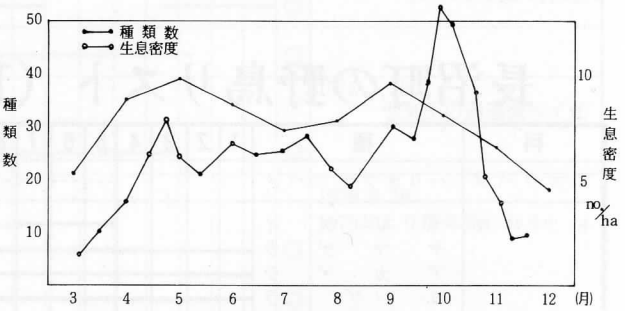
(1) 鳥相の概要

これまでに観察されたのは39科・111種類である。このうち70種が繁殖又は、繁殖の可能性があり、記録された種類の63%である。馬追丘陵での詳細な調査を実施すれば、森林性鳥類はさらに増加すると考えられる。また、河岸や、小沼、湿地での調査をすれば、水鳥の種類も増加すると思われる。ちなみに、『長沼町90年史』（木田重雄氏）によると、164種の鳥が観察されている。

表1に、観察種類数と生息密度の推移（1980年）を示した。種類数は4～5月と、9～10月に多かった。これは、ガンカモ類、シギ類、オオハクチョウ、レンジャク類、ツグミ、カシラダカなどの渡り鳥と、カケス、ウグイス、ヤブサメ、エナガ、ゴジュウカラ、キクイタダキ、ベニマシコ、ウソなどの森林性の鳥がこの時期に観察されるためである。生息密度は5月と10月に大きなピークを示す。5月は夏鳥が増え、ツグミ、カシラダカが多いためで10月は、繁殖を終えたムクドリ、スズメ、カワラヒワが群れをなすこと、カラ類が群れで山からおりてくること、ツグミ、カシラダカが観察されたためである。5～7月は、種類数、生息密度とも安定している。8月には、繁殖を終える種類（主にムクドリ）があり、生息密度は一時的に減少する。

(2)　農耕地の鳥

とくに珍しい鳥はいないが、3月下旬にまずヒバリが姿をあらわし、残雪の中でさかんにさえずる。ついで、ハクセキレイ、アオジ、モズ、オオジシギ、ノビタキ、ホオアカが4月中に、アカハラ、クロツグミ、コムクドリ、カッコウ、コヨシキリ、オオヨシキリが5月中に、6月にエゾセンニュウらが渡ってきてメンバーが揃う。牧草地ではウズラ、ホオアカ、ノビタキが多くみられ、数は少ないが、コウライキジもよく見られる。



観察種類数と生息密度の推移（1980年）

(3)　森林の鳥

農耕地の防風林などでは、アオジ、アカゲラ、コゲラ、コガラ、シジュウカラ、ヒガラ、アカハラ、キジバト、コムクドリ、ムクドリ、シメ、ヒヨドリ、エゾセンニュウらが繁殖している。また、馬追丘陵では、イカル、ルリビタキ、ベニマシコ、センダイムシクイ、キビタキ、クロツグミ、キクイタダキ、エナガ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、キバシリ、メジロ、ウソ、カケスなどが繁殖している。

(4)　猛禽類

トビ、チゴハヤブサ、ハイタカは、防風林で繁殖する。また、トラフズクも1977年に防風林で繁殖を確認している。馬追丘陵ではオオタカ、フクロウ、ノスリが繁殖していると考えられる。

(5)　水辺の鳥

毎年繁殖しているのは、バン、カイツブリ、カルガモ、オシドリ、イソシギ、オオジシギである。ガンカモ類では、キンクロハジロ、ホシハジロが夕張川や、蛇行跡の小沼で毎年みられる。シギ類は、農業用水や夕張川付近で観察されるが、数は多くない。また、1979年から、春期、夕張川周辺にオオハクチョウが飛来するようになり、その後、毎年観察される。

(6)　珍しい鳥

1976年3月26日に、数日来の吹雪の後に、ハイイロウミツバメのへい死体を、長沼町中央農試で発見した。我が国には春秋、冬期に飛来することがあるとされているが、沖合の海洋上に生息するため、観察例は少ないとされている。採集地は、海岸より直線で約50ないし65km離れているが、低気圧の通過とともに海上より迷い込んだものと考えられる。

コウミスズメ

1978年3月下旬に、低気圧の通過時に、同じく中央農試で観察された。本種は、冬期に北海道近海で多数見られるもので、前種同様に低気圧で内陸部に運ばれたものと考えられる。

ユキホオジロ

1978年1月下旬に、中央農試圃場周辺の雑草種子を採餌している10数羽が観察された。

長沼町の野鳥リスト（1976.4～1981.12）

科	種	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	繁殖	備考
アマツバメ	ハリオアマツバメ					-	-	-	-	-					
キツツキ	アリスイ					—	—	—						◎	
	ヤマゲラ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	◎	
	アカゲラ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	◎	
	コゲラ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	◎	
ヒバリ	ヒバリ			—	—	—	—	—	—	—	—			◎	
ツバメ	ツバメ					—	—								
	イワツバメ					-	-	-	-	-					
セキレイ	キセキレイ									—					
	ハクセキレイ				—	—	—	—	—	—	—			◎	
	セグロセキレイ			—								—			
	ビンズイ				—	—					—	—			
ヒヨドリ	ヒヨドリ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	◎	
モズ	モズ				—	—	—	—	—	—	—			◎	
	アカモズ					—	—	—						◎	
	オオモズ				+										1976年4月上旬
レンジャク	キレンジャク					—									
	ヒレンジャク					—									
ミソサザイ	ミソサザイ										—	—		○	
ツグミ	ノゴマ										—				
	ルリビタキ					—					—			○	
	ノビタキ				—	—	—	—	—	—	—			◎	
	トラツグミ					—						—		○	
	クロツグミ					—	—	—	—	—				◎	
	アカハラ					—	—	—	—	—	—			◎	
	ツグミ	—	—	—	—	—						—	—		
ウグイス	ヤブサメ				—					—	—			○	
	ウグイス				—	—	—							○	
	エゾセンニュウ						—	—	—	—				◎	
	コヨシキリ					—	—	—	—	—				◎	
	オオヨシキリ					—	—	—	—	—				◎	

科	種	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	繁殖	備考
ウグイス	メボソムシクイ						—								
	エゾムシクイ						—								
	センダイムシクイ					—	—	—						◎	
	キクイタダキ	—	—	—	—	—						—	—	◎	
ヒタキ	キビタキ					—								◎	
	コサメビタキ								—						
エナガ	エナガ	—	—	—	—						—	—	—	◎	
シジュウカラ	コガラ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	◎	
	ヒガラ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	◎	
	ヤマガラ	—	—	—								—	—	○	
	シジュウカラ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	◎	
ゴジュウカラ	ゴジュウカラ	—	—	—	—	—				—	—	—	—	◎	
カイツブリ	カイツブリ				—	—	—	—	—	—	—			◎	
ウミツバメ	ハイイロウミツバメ														1976.3.26 低気圧の通過後へイ死
サギ	アオサギ				—	—	—	—	—	—				◎	
ガンカモ	ヒシクイ									+					1979.9.29
	オオハクチョウ				—										1979年より毎年見られる
	オシドリ				—	—	—	—	—					◎	
	マガモ										—				
	カルガモ				—	—	—	—	—	—	—			◎	
	ハシビロガモ										+				1980.10.29
	ホシハジロ										—				
	キンクロハジロ				—										
	カワアイサ									+					1978.9.26
ワシタカ	トビ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	◎	
	オジロワシ			+											1980.3.19幼鳥
	オオタカ					—			—	—				◎	
	ハイタカ				—	—				—	—	—	—	◎	
	ノスリ	—	—	—	—	—			---		—	—	—	○	
ハヤブサ	チゴハヤブサ			—	—	—	—	—						◎	
ライチョウ	エゾライチョウ										+	+			1982年10月4日
キジ	ウズラ					—	—	—	—	—				◎	
	コウライキジ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	◎	
クイナ	ヒクイナ					+									1976年5月へイ死体
	バン					—	—	—	—	—				◎	
チドリ	コチドリ					+									1984年5月
シギ	ハマシギ					+									1977.5月上旬
	アオアシシギ									—					
	クサシギ										—				
	タカブシギ					+									1977.5月上旬
	キアシシギ										—				
	イソシギ				—	—	—	—	—	—				◎	
	ヤマシギ							+							1977.7.4
	オオジシギ				—	—	—	—	—	—				◎	
カモメ	ユリカモメ				+										夕張川で見られる
	オオセグロカモメ				+				+						
ウミスズメ	コウミスズメ			+											1978.3月低気圧通過後、1羽迷い込む

科	種	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	繁殖	備考
ハト	キジバト													◎	
	アオバト														
ホトトギス	カッコウ													◎	
	ツツドリ													◎	
フクロウ	トラフズク													◎	
	コミミズク					+									1980.5月上旬
	フクロウ													◎	
ヨタカ	ヨタカ														
キバシリ	キバシリ													○	
メジロ	メジロ													○	
ホオジロ	ホオジロ													○	
	ホオアカ													◎	
	カシラダカ														
	アオジ													◎	
	クロジ				+										1981年4月下旬
	オオジュリン														
	ユキホオジロ	+													1978年1月下旬
アトリ	アトリ														
	カワラヒワ													◎	
	マヒワ														
	ベニヒワ											+			1977年11月
	オオマシコ				+										1978.4月中旬
	ベニマシコ													○	
	ウソ													○	
	イカルシメ													○	
														◎	
ハタオリドリ	ニュウナイスズメ														
	スズメ													◎	
ムクドリ	コムクドリ													◎	
	ムクドリ													◎	
カラス	カケス													○	
	ハシボソガラス													◎	
	ハシブトガラス													◎	

069－13　夕張郡長沼町東5線北15号

室蘭の渡り

福岡　研也

室蘭測量山のワシタカも年々有名になり、昨シーズンは札幌はじめ道内各地から大勢のワシタカウォッチャーが訪れ、運良く気象条件に合った日に来られた方は十分満足され、運悪く雨天、強風、海霧の日に巡り合った方は、高い汽車賃やガソリン代の元もとれないで、さぞかし室蘭のイメージを悪くされているに違いない。そういう日に訪れた方には、ワシタカに代って深くお詫び申し上げたい。何せ「渡り」が秋たけなわの季節なので、天気と何とやらは当日になってもとんと予断を許さない。その代り、うまく晴天無風の渡り日和に出くわせば、9月のオオタカ、ハチクマに始まり、12月のノスリ、トビの渡りまで、彼らの織りなす一大ページェントに首が痛くなること請け合いである。空を見上げたまま3時間は忘我の状態に陥ってしまうため、室蘭への車中では首の体操をおこたりなくされてくることをお推めしたい。

昨シーズン測量山から対岸の駒ヶ岳を目指していったワシタカを9月中旬から順番に挙げるとオオタカ、ハイタカ、ツミ、ハチクマ、チュウヒ、ミサゴ、ハヤブサ、チゴハヤブサ、クマタカ、ノスリ、トビ、オジロワシという順になる。他にチョウゲンボウ、サシバらしい姿も見

られたことをつけ加えたい。数は日によって異なるが、条件が合えば、これもやはり対岸を目がけて飛んでいくヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリの何百の群れなど見ている余裕もなく、上を見上げたきりになってしまうのである。伊良湖や佐多岬には未だ行く機会がないので知らないが、測量山の特徴は、大体半月ごとにその鳥種が変っていくことにあると思う。そのうちでオオタカ、ハイタカなどは比較的シーズン通して見られ、逆にハチクマ、ミサゴは早いうちに渡りを終えてしまう。数が多いのはノスリ、トビで、室蘭在住の先輩山口氏が12月4日カウントしたところによると、午前8時30分から約3時間の間に渡っていったトビは2000羽を越えたそうである。ワシタカ探鳥会というのは、いささかスタイルが異なり、100人以上の多勢で、あっちだこっちだなどワイワイと賑やかに出来るので楽しい。第一足元の悪い山路や河原を息を殺して小鳥の姿を追い求めて歩き回らなくとも良いし、お決まりの女測量山の山頂からは360度見渡す限り探鳥地ということになるので、老若男女、初心者からベテランまで参加者全員が公平に楽しめる。ぜひ今年は室蘭まで足を運ばれては如何だろうか。

私事であるが、10月の渡りのシーズンを、何の因果か病を得、病院のベットで過すことになってしまい、毎日窓外の青空をベットの上からうらめしく眺めていたのだが、これが禍転じて思わぬ発見につながったので、ひとつこれを紹介したい。この病院は室蘭市の東北、室蘭岳のふもとで、市街地のはずれにある総合病院なのだが、10月24日6時、起床とともに窓へ目をやると、50羽位いの小鳥の群れが東から西へと飛んでいくのが見える。起き上って良く見ると、10羽から70羽くらいの小群がいくつも四階の病室から視界いっぱいに大群をつくって飛んでいく。どうもツグミらしい。窓を開けるとやはり鳴き交すツグミの声が聞えて来た。ツグミの大群の話は、本州の中部地方のことと思っていたが、今眼前に広がる光景はまさしく話に聞いていたそれである。眼下に連なる住宅の屋根すれすれに飛ぶ群、双眼鏡でやっと見える位高空を飛ぶ群、どの位の数なのか、数えるにも多すぎてカウントするのは殆ど不可能に近い。

ツグミの渡りは東から西へ途切れることなく3時間続いてピタリと止み。9時以降は時折小群が飛んでいくに過ぎなくなった。その日はベットの上で手術後の傷の痛みも忘れカウントの方法を考えてみた。病室の窓は6枚からなり1枚が約1×1.5メートルある。この1枚の範囲内を1分間に通過する平均の数をベットの位置から数え、それを何倍かにすればおおよその全体の数がわかる筈と独り合点し、翌25日6時から実行に移した。その結果6時からの3時間で少なくみても10万羽は通過していった計算になり、改めてその膨大な数に驚いたものである。渡りは約1週間続きピークは数え始めた25日であった。その時期測量山の鳥友からはツグミの報告は得られず、どうも海添いの陸路を行ったとしか考えられない。毎年この時期に同じコースを辿るのか。何故渡りが陽の出から3時間だけなのか、考え出すといろんな疑問が湧いてくる。

今年の秋はワシタカの渡りに加えてツグミも観察せねばならず、今度はベットからでなく病院の屋上あたりに陣取ってじっくりと眺めたいと、今からワクワクしている。どなたかツグミの群れの正確なカウントの方法を教えてくれませんか。

〒050　登別市美園町6丁目14－10

野幌　59.10.28　富川　徹

私が野生動物に取り付いたのは、概ね社会に出てからである。学生時代の山岳部にいた頃は、もっぱら目的の山頂を目指し一途に速く登ること、そして一目散に下山するという典型的スピード型登山を優位に考えていた。そんな中、登山道で鳥や獣が飛出すことがしばしばあった。また、山小屋泊やビバーク時には付近で不気味な鳴声らしきものが昼夜に渡って聞こえ、気になって寝付かれないことの経験もある。多分声はトラツグミやヨタカ、アオバトなどであったのだろう。ほんの少しもの観察の目が行届いていればと、今思えば情無い次第である。そんな独言をいっている者が最近この探鳥会や自然観察会などに意地で参加しているのである。

昨夜からの強い風雨が今朝まで引き続き、今日の探鳥会には人が集まって来るのかとあきらめ半分行くだけでもと大沢口の集合地へ向かった。参加者は予想どおり少なく会の幹事5人だけであった。私は風邪と一昨日までの出張疲れもあって、軟弱にも中止を希望したのですが、「風雨も多少治まり加減になって来たようだし、またせっかく足を運んだこともあって、このメンバー（幹事）だけでも歩こう」ということになった。大変熱心な人達だと、またさすがに愛護会のリーダーだと、あらためて感嘆した。

既に、集合地ではツグミ、ムクドリの群れが上空を右往左往忙しげに飛び舞っており、森林公園には餌が豊富にあることを物語ってる。

私は、開拓記念館には古くからよく来ているのですが、林内については詳しくはない。今日の観察コースはもちろん初めてである。

偶然にでも楽しいものが見られる事に期待して、雨具を着衣し、林内に足を踏み入れた。まもなく、ハシブトガラ、エナガ、コゲラの小混群がお見えである。「やはり、こんな日でも動くのだなぁ」などと、この時季の愛らしいエナガにはしきりに双眼鏡を四方八方に追いやっていた。突然、小雨があられに変り地面を叩く音や、地上での採餌から飛び立つツグミらの声で他の鳥の声が聞こえにくくなる事もあった。覚悟を決め、寒さと慌しい中の探鳥会になることに、もう心配するまでもなかったが、それにしても昼食時の寒さには、さすがの私も震え上がっていたようだ。

観察の結果は、２９種（不明２）であった。この時期、天候、環境要因からいってもはじめに見られたカラ類等の出現が思ったより以外に少ない。一方、何といってもツグミ、ムクドリそして次にウソ、マミチャジナイ等が優先しており、今の森林公園内の代表種であることがうかがわれた。夏には亜高山帯にいたウソの声が遠くからも〝フィーフィー〟とよく聞こえ、もうここに来ていることを教えてくれる。ノドからほおにかけて赤く、黒いアタマ、白いおなかと、美しいオスには眺める時間も今少し長かった気もする。また今頃は見ることの少ないキレンジャクとヒレンジャクが数羽入り混り、ヤドリギの果実をついばむのが観察され、「これからいったいどこに種（たね）を運ぶのだろう、今冬には群れを成してまた来るのかなぁ」などと色々考えさせられる。天候には恵まれずも種類には比較的恵まれた探鳥会は、私を存分に楽しませてくれた。

野幌森林公園は札幌近郊では環境的にも優れており、自然観察などのよきフィールドとして多くの人々に親しまれている。それにしてもこの季節の変り目が幸いしてか、多くの鳥が見られたことには驚かされ、なるほどよきフィールドであることをしっかりと認識させられた。私には好結果に終わったのだ。…はじめは軟弱にも中止を望んだ私にとって、あまりにも考えさせられた一日であった。

〔記録された鳥〕
トビ、ハイタカ、ノスリ、キジバト、アカゲラ、コゲラ、ヒヨドリ、キレンジャク、ヒレンジャク、ミソサザイ、ルリビタキ、マミチャジナイ、ツグミ、エナガ、ハシブトガラ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、キバシリ、カシラダカ、アオジ、クロジ、カワラヒワ、ウソ、シメ、ムクドリ、カケス、ハシブトガラス、カモSP.、カモメSP.、　以上２９種

〔参加者〕
長谷川涼子，堀内　進，道川富美子，柳沢千代子，富川　徹，　以上５名

〔担当幹事〕
堀内　進，道川富美子

〒064　札幌市中央区北6条西28丁目円山北町団地
3-203

ウトナイ湖　59.11.28　佐々木　武巳

11才の孫を道づれに初めて探鳥会に参加しました。前日までの天気予報では当日は全道的に雪降りの確率が高く少々大変だなあーと覚悟を決めて居りましたが、バスを降り湖畔に着いたときは大変よい天気で思い切って参加したことが本当に嬉しく思いました。野鳥に対する知識がほとんどなかった私にとって双眼鏡で見る野生の鳥の美しさは何とも形容しがたく、唯々感激するのみでした。また会員の方々の親切な説明で全く解らなかった鳥の名前を幾つか覚え孫に至っては性能の悪い双眼鏡で少々いらいら気味のところ会員の方に望遠鏡を覗かしていただき一人感激したものと思われます。空気は良し、環境は雄大、野鳥の美しさ、私共都市生活者にとっては総て最高の日でありました。野外で観察の後、湖畔のネイチャーセンターでの各種資料設備の充実さには驚くばかり。スライドによる野鳥と自然の形態等レンジャーの方による詳細な解説を加えての企画は唯々感激するのみです。観察中の最大のイベントは大空に飛翔するオオワシ、オジロワシの英姿でした。終生忘れることのない思い出となることでしょう。またの機会には是非参加したいものと思っております

玉山　武

11月18日、おじいちゃんに誘われてウトナイ湖に探鳥会に行きました。朝6時に起きてみると外は快晴、胸をわくわくさせながら出発。
ウトナイ湖には、9時半到着、白鳥の写真を写してから探鳥に出発。バス停留所から数分歩いた所で観察を始めた。そこでは、ハマシギ、ツルシギ、アオサギ、ダイゼンなどが見えた。そこで、1時間ぐらい観察。
一度、バス停留所に戻ってから、ネイチャーセンター側で観察、しばらくそこにいると、カモの群れが飛来、それを追った、オジロワシがウトナイ湖に入って来た。オジロワシは、1わもつかまえずに、カモメに追われた。追われながらも、オジロワシは、魚をつかまえて飛んでいた。カモメがあきらめると、魚をつかまえているのを見たトビが、追ったが、すぐにあきらめた。その、すぐ後

に、勇々と翼を広げて飛んでくるオオワシその光景は、なんともいえないすばらしいものでした。

初めての、探鳥会で、オジロワシやオオワシが見れるとは、運がいいと思います。

特にオジロワシとオオワシは、印象に残りました。

〔記録された鳥〕　アオサギ、オオハクチョウ、コハクチョウ、　（コブハクチョウ）　マガモ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、アメリカヒドリ、オナガガモ、ホオジロガモ、ミコアイサ、トビ、オジロワシ、オオワシ、ダイセン、ハマシギ、ツルシギ、セグロカモメ、カモメ、アカゲラ、ハクセキレイ、ハシブトガラ、シジュカラ、スズメ、ハシブトガラス、　以上26種

〔参加者〕　舟橋定之、羽田恭子、早瀬広司、堀内進、伊沢雅子、伊藤　博、岩泉ゆう子、泉きみこ、泉屋宜志・恵津子、木下重康、道川　弘・富美子、浪田良三・典子、野々村　菊、佐々木武巳、園部恭一、竹内　強、玉山　武、戸津高保・以知子、武沢和義、　以上23名

〔担当幹事〕　早瀬広司、堀内　進

〒063　札幌市西区西野13条8丁目5—34

小樽港　59.12.16　末岡　睦

－4℃　昨日に続く真冬日。防寒重装備の遠来のお客様を迎え、大型バスはぎっしり。配布の書類を読みながら祝津海岸に向う。第一の目的地日和山燈台で下車。海から吹き上げる風は身を切る様に冷たい。昨夜降った雪は凍りついてアイスバーンになっている。三脚を据えるのが一苦労。海に向っての望遠鏡の放列は豪勢で、我々双眼鏡組には一寸妬ましい。そんな頭の上をキラキラとハクセイレイが過ぎて行く。強制疎開されて今はからっぽのトドの池のフェンスは波が凍りつきレースの様だ。その辺り夏の名残りの売店の屋根の上にも突堤の上にも岩の上にもウミネコ、オオセグロカモメ、セグロカモメの群。風にのって来る鳴き声が賑やかだ。目の早い先輩が一羽のワシカモメを発見。「シロカモメでないのかな？」、「いやワシカモメだ」そんなやりとりが聞こえる。一段上の丘のグループが「とど岩」の上にハヤブサを発見。波しぶきを受けながら悠然たる雄姿。全く動かない。もう昼近いというのに誰も寒いとも帰るとも言わない。さすが!!と内心驚く。双眼鏡にチラリと赤い色が。すかさず隣からシノリガモと声がかかる。再びバスに乗り込み窓から小樽港を眺めつつ勝納埠頭に向う。フェリー待合室で昼食。一時出発。中央埠頭北側にホオジロガモの群れ。この頃から降雪はげしく海面に吸い込まれる雪の美しさに見とれる。冬海の穏やかさが妖しくも美しい。視界にホオジロガモの群、フィルドスコープをセットして渡辺さんが説明して下さる。何という可愛らしさ。白い体に黒い頭。クリクリと首を背に埋めて空を仰ぐしぐさが面白い。濃い色のメスの数は少なくて二群三群を率いて悠々と港内を回遊する。各々で数えた結果１２５羽と中野先生が断を下す。彼等が一勢に飛立つ様は壮観だ。その羽音が冬海の風を切り活々と感動的な一瞬だ。第二埠頭の先から港一面が見渡せるが、先刻飛び立ったホオジロガモの群が我々の行く処に待伏せする様に南側の海に群れていた。ここでまたしばらく沖に、焦点を合せる。コオリガモがいる。尾の長いオスがはっきり解る。ウミアイサの頭も確認する。札幌からの女の方がウミスズメを発見。見せていただく。成程ひらべったい一羽が浮きつ沈みつ。かなり沖なのによく見える。ハジロカイツブリ。ミミカイツブリの顔を図鑑片手に一生けんめい覗くが私にはよく解らない。とり合せて23種を確認。何と豊かな素晴らしい一日。満ち足りた思いで帰途につく。この日、町はボーナスサンディ。けんそうと混雑の一日だったという。

〔記録された鳥〕　ハシジロアビ、ハジロカイツブリ、ミミカイツブリ、アカエリカイツブリ、ウミウ、ヒメウ、シノリガモ、コオリガモ、ホオジロガモ、ウミアイサ、ハヤブサ、ユリカモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、ワシカモメ、ウミネコ、ウミスズメ、ハクセキレイ、シジュウカラ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト、　以上23種

〔参加者〕　亀尾紋十郎、斉藤正彦、後藤ひろみ、高橋里子、外山定夫、大泉正尚、吉田五市、中野高明、渡辺俊夫、末岡　睦、堀内　進、浪田良三、青木二郎、松田元助、園部恭一、大坊幸七、岩泉ゆう子、泉屋宜志・恵津子、戸津高保・以知子、武沢和義・佐知子、井上公雄、長岡範子・宏幸、柳沢信雄・千代子、羽田恭子、田辺至、二上　篤、長谷川涼子、　以上32名

〔担当幹事〕　中野高明、渡辺俊夫、

〒047　小樽市緑町1丁目28番3号

藤の沢　60.1.20　宮本　聡（小２）

“ぼくの一ばんすきな鳥”

ぼくの一ばんすきな鳥は、かわせみです。

なぜかというと、かわせみは、空もとべるし、水の中に行って、さかなをとってたべるし、すごくきれいだ。

かわせみの、すは、どてのあなにあるので、てきにみつからないからいいな。

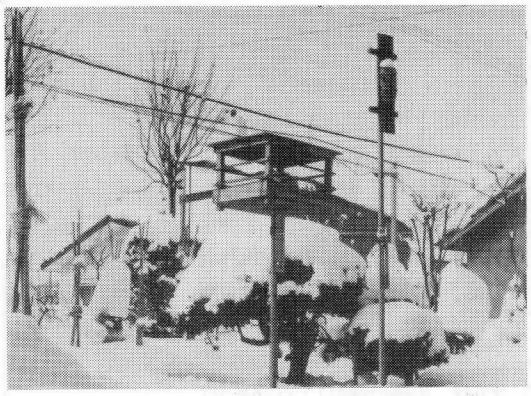
“もし、うまれかわったら”
もし、うまれかわったら
ぼくは、とりのかわせみに、なりたい
なぜかというと　かわせみは
空も、じゆうにとべるし
川の中で、さかなを　とる鳥だ
ぼくは　かわせみになって
さかなをとる、チャンピオンになりたい

〔記録された鳥〕　アカゲラ、コゲラ、ヒヨドリ、ツグミ、エナガ、ハシブトガラ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、シメ、スズメ、カケス、以上13種

〔参加者〕　長谷川涼子、羽田恭子、品田延一、野口正男、佐々木武巳、玉山　武、武沢和義・佐知子、工藤敏人、松井由紀子、神崎倫恵、榎波豊子、松井　昌、大坊幸七、柳沢信雄・千代子、戸津高保・以知子、宮本ヨシ子・聡・亜矢子、中島竜男、道川富美子、井上公雄、五十川祐弘・ハナ子、今田和史・瑞樹・琢、栃本文子、黒畑重雄・ハツエ、堀内　進、谷口一芳・登志、曽根モト、霜村耕一・佳代子、西川喜久世、綿谷千冬、田中静江、塚原英代、泉屋宣志・恵津子、清水幸子、船尾　疆・恭子、小堀煌治、佐々木　保、向井四郎、鹿島憬策・利子、伊豆田登、木村トキエ、蝦名長義、以上55名

〔担当幹事〕　小堀煌治、長谷川涼子、道川富美子、
〒061-21札幌市南区真駒内上町4丁目A2−32

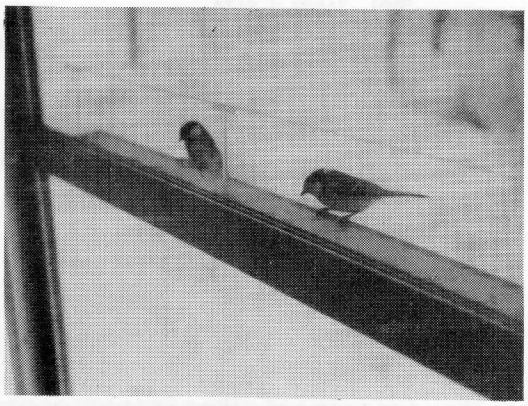
※　探鳥会報告にかえて、散文詩と絵が寄せられましたのでこれを掲載しました。(編集部)



ネコ防止に鉄管を使ったもので、右側が金網で包まれた脂身、左はドバトが入れないよう竹の格子がつけられた給餌台です。　札幌市白石区：新宮宅

藤の沢「小鳥の村」内にある大型の給餌台で、トウモロコシが見事です。　札幌市南区：小沢宅

北海道神宮の開拓神社に設けられた給餌台。左の看板には「バードウォッチングの皆様、観察される時は小鳥の邪魔をしないで下さい。……ルールを守りましょう」と書かれています。
札幌市中央区



アルミサッシの戸の中仕切り部分にエサ箱をつけ、その上に透明のアクリル板（うすく線が入った様に見える部分）が雪よけとしてつけられているアイデア給餌箱です。
登別市：福岡宅

◆新年懇親会の報告◆

1月26日14時～16時30分まで北海道婦人文化会館で新年懇親会が開かれました。

会長の新年のあいさつの後、ゲストの日本鳥類保護連盟の柳澤紀夫氏の講演を聞きました。

鳥とはどんな動物かという日頃なかなか聞くことのできない話から始まり、氏と北海道との関わり、北海道は鳥たちにとってどんな土地なのかという話に及び、最後のしめ繰りとして鳥たちが住むことのできる環境とはどんなものか、例えばオオタカの営巣に必要な面積は4haでこれは人間が1人生活するために必要な面積と同じであるなど具体的な例をあげて自然保護の必要性を話されました。その後恒例のスライド影写会に移り、柳澤氏や山田良造さんの写真を楽しみました。新年懇親会は年々内容も充実し参加人員も増えています。来年もふるって参加して下さい。

・参加人員37名

〔野幌森林公園〕
昭和60年5月5日（日）
午前9時30分　大沢駐車場入口または百年記念塔前8時30分集合。

〔植苗、ウトナイ湖〕
昭和60年6月16日（日）　午前9時10分国鉄千歳線植苗駅前集合。

〔東米里〕
昭和60年6月23日（日）　午前9時東米里小学校前バス停留所集合。(地下鉄菊水駅から札幌市営バス米里線利用)

〔東区・福移〕
昭和60年7月7日（日）　午前8時30分札幌市営バス札苗線福移入口停留所集合。

〈野幌森林公園を歩きましょう〉
昭和60年5月26日（日）　6月9日（日）　7月14日（日）　午前9時30分大沢駐車場入口、または百年記念塔前8時30分集合。

いずれの探鳥会も、ひどい暴風雨でないかぎり行います。昼食、筆記用具、観察用具をご用意下さい。

探鳥会のお問い合わせは、長谷川011-865-1735まで。

＜一泊早朝探鳥会の案内＞

昨年好評いただきました千歳川周辺の一泊早朝探鳥会を行います。多数の会員参加をお待ちしています。

1．日時　昭和60年5月18日（土）　19：00より
19日（日）午前中解散予定

2．場所　サンポートガーデン　千歳市蘭越町5番地

電話　01232-3-3741

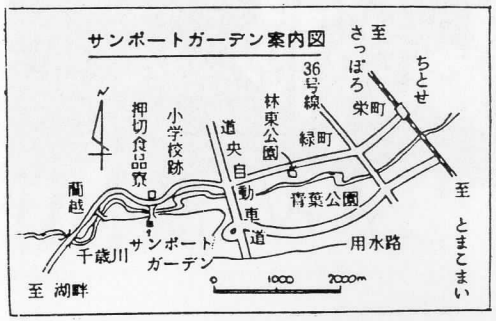
3．会費　.2,000円　夕食付(ジンギス汗鍋)朝食は各自持参、尚、宿泊設備がないため寝袋、毛布など各自ご用意ください。

※　自家用車の方は直接サンポートガーデン集合（駐車場あり）

列車、バスご利用の方は千歳駅待合室18時30分集合。駅から現地まではタクシーを利用します。

19日（日）　午前4時から探鳥

※　参加申込　4月と5月の野幌森林公園探鳥会の折受付けます。尚、電話の場合は5月16日、17日にお願いします。電話865-1735（夜間19：00から21：00）長谷川涼子まで。



鳥民便り

◆定例幹事会報告

59年12月5日（水）　18時45分～20時15分

札幌市民会館会議室　出席幹事9名

〔審議内容〕

1　新年懇談会を1月26日(土)、北海道婦人文化会館で行うこととし、当日の講演には、(財)日本鳥類保護連盟の柳澤紀夫氏をお願いした旨報告があった。

2　野鳥だより58号の発行予定等について説明があった。

3　絵ハガキの作成が印刷会社に原稿を渡す段階に来ており、完成が近い旨報告があった。

◆定例幹事会報告

60年1月9日（水）　18時45分～20時、市民会館会議室、出席幹事10名

〔審議内容〕

1　野鳥だより58号の発送について報告があった。

2　北海道野鳥愛護会の名前入りの、原稿用紙と封筒ができあがった旨報告があった。

3　国会図書館より、野鳥だよりの英名の問い合わせがあった旨、報告があった。

4　探鳥会用テキストの今後の配布方法等、討議した。

5　絵ハガキ作成の遅れについて説明があり、再度納得のいく色に仕上げてもらう様に注文する旨、報告があった。

◆野鳥写真展のお知らせ

今年も例年どおり写真展を開催しますが、「全国野鳥保護のつどい」の事務局からの要請により、野幌開拓記念館で行う保護のつどい野鳥展にも協力することになりました。

集まった写真を5月1日から開催する保護のつどい野鳥展に展示し、その後で愛護会の写真展を5月27日から開催します。保護のつどいの野鳥展には他の作品も展示しますので同種の写真が重ならないようにするなど全体のバランスを考えて愛護会の作品から何点かセレクトして展示します。また保護のつどいの野鳥展はパネル仕上げにしますので、パネル仕上げを望まない方はその旨記入して応募して下さい。

＜募集要領＞

◎テーマ：野鳥の写真ならどんなものでも結構です。

◎サイズ：カラーで四ツ切以上

◎しめ切り：4月25日まで、野鳥愛護会事務局あて。　◎写真処置：展示後、パネル、額ぶち付きで返送。※　撮影場所、撮影年月日、鳥名を記入して送って下さい。

「全国野鳥保護のつどい」写真展：5／1～5／19、野幌開拓記念館

愛護会写真展：5／27～6／8、三菱信託銀行札幌支店

◆　ＩＳＳＮのナンバーについて

このたび、国立国会図書館から本会あて「野鳥だより」についてＩＳＳＮ（International Standard Serial Number：国際標準逐次刊行物番号)を割り当てた旨の通知がありましたので、今号以降、本誌表紙の右肩にこのナンバーをつけることにしました。

ＩＳＳＮは、雑誌、年報等継続的に刊行される物に付与される国際的なコード番号のことで、これは、ＩＳＤＳ（国際逐次刊行物データ・システム）という組織のもとで逐次刊行物の識別や検索に利用されるものです。

〔北海道野鳥愛護会〕年会費1,500円（会計年度4月より）郵便振替　小樽1－18287
〒060 札幌市中央区北1条西7丁目　広井ビル5階　北海道自然保護協会気付　☎（011）251－5465